

来聴自由・部分参加可能・無料

映像はなぜ動いて見えるの？

——映像装置の制作を通して考える——

2026/2/14-16 @法文1号館102教室

映像装置の制作を希望する場合は事前申込が必要です（先着10名）。2/4までに右記よりお申し込み下さい。聴講と議論への参加は予約不要です。

※公共の交通機関でお越しください。



講師：橋本典久（東京藝術大学）

コーディネーター：太田純貴（鹿児島大学法文学部）

DAY1（2/14） イントロダクション・「見えること」について

Part1 14:00-16:00 自己紹介＋作品紹介＋映像装置レプリカ紹介

Part2 16:10-18:10 「見える仕組み」再考＋質疑

DAY2（2/15） 初期映像装置を制作して検証する

Part1 10:30-11:30 ソーマトロープを考える

Part2 11:45-13:00 フェナスティスコープを考える①

Part3 14:30-15:45 フェナスティスコープを考える②

Part4 16:00-18:00 プラクシノスコープを考える

DAY3（2/16） ディスカッション・総括

Part1 10:30-12:00 映像と文化、もしくはものづくりと理論



橋本典久氏



ミュートスコープ（橋本氏制作）

橋本典久 HASHIMOTO Norihisa

プリミティブメディアアーティスト | 東京藝術大学大学院映像研究科特任研究員

略歴

2000 筑波大学大学院芸術研究科総合造形分野修了

2005 – 2009 独立行政法人科学技術振興機構(JST)戦略的創造研究推進事業「さきがけ」研究員

2010 – 2011 東京大学特任研究員

2015 – 2025 明治大学総合数理学部特任講師

2025 東京藝術大学大学院映像研究科特任講師

映像の歴史や発展にともなう様々な装置に根ざした視点から、シンプルで力強い作品を制作。映像メディアに関する研究、ワークショップを多数行い、近年は初期映像装置類のレプリカや解析を行っている

※橋本氏が制作した映像装置の例



キノーラ



オンブロチネマ

今回のワークショップでは、映像作家の橋本典久さんを講師にお招きして、今となっては馴染みのない映像（光学）装置を実際に制作します。自分で装置を作りながら、なぜ動画は動いて見えるのかを参加者で議論し理解を深めることを試みます。

聴講無料で途中入退場も自由です。一部だけの参加も歓迎です。装置を実際に制作してみたい！という方はフライヤー表面の二次元コードから事前予約をお願いします。

問い合わせ先：鹿児島大学法文学部 太田純貴 | yota@leh.kagoshima-u.ac.jp